本社付近に倉庫

白石倉庫

物流用にリノベーション

【宮城】白石倉庫（太宰栄一社長、宮城県白石市）が本社付近で建設を進めていた新倉庫が完成し、8月末から営業を開始した。

白石インターADC（アグリ・ディストリビューション・センター）倉庫としてオープン。元々はプリント基板をメインとした電子部品の工場で、取引先が取得した同物件を物流用にリノベーションした。敷地面積3520平方㍍、2階建て鉄骨造りで、延べ床面積は2090平方㍍。用途別に3区画に分かれており、1階がセ氏5～15度対応の穀物用低温倉庫（560平方㍍）と精密機器用のセ氏15度程度の除湿定温倉庫（160平方㍍）で、2階は機械装置や家財などの保管を想定したレンタルスペースの空調倉庫（730平方㍍）。正面には、大庇による雨天荷さばき場も整備した。

同社が工場から倉庫への再生を手掛けるのは2件目で、更に1棟のリノベーションを検討中。こうした事業を進める理由について、太宰社長は「地方の工場が海外移転などにより遊休施設となってしまい、工業団地がゴーストタウン化するのは良いことではない。イメージとして、シャッター商店街をにぎやかにしたいという気持ちと同じ」と強調。その上で、東日本大震災以降に建設資材が高騰し、既存構造物を生かした改修工事の効果が大きかった点を指摘し「東京オリンピック・パラリンピックの建設需要が、この傾向を一層強くした。ただ、新型コロナウイルス感染拡大の影響で建設需要が下落するとの見方もあり、リノベーションのメリットが薄くなる可能性もある。中古物件の目利き力とリノベーション用途のアイデア力が、ますます求められてくるのではないか」と話している。

（今松大）

2階建ての3区画で営業を開始